

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合で、空欄にした部分があります。）

いよいよ人工知能（AI）が活躍する時代が始まった。車の自動運転がさかんに試されているらしい。学術論文から詩や小説まで、多方面に渡って怪しげな（？）書き物が流行り出している。音楽や美術、建築でも芸術家とロボットと共同作業で、作曲したり絵を描いたり設計図を作ったりしている例は少なくない。私は美術家としてこの現象を早くから興味深く見守っている。

ところで最近芸術畑のみならず、囲碁の世界でもAIと強豪棋士との対局が話題になった。棋士が四敗一勝しAIの□A□的な強さが証明された。□①□囲碁の歴史は千年を越えるが、AIは開発されてまだ日は浅い。それなのについて人間の作った機械に、人間が敗れるというアイロニーを経験することになったかと思うと□②□複雑な心境である。このような現象は、先々増え続けるだろうことを了解せねばなるまい。

AIは情報を入力したコンピュータである。蓄積された□③□ボウダイな量のデータが、ソフトなのだ。しかし一般論として、どんなに優れた大量のデータであってもそれは限度を持つ。またAIにあれこれ「学習」をさせるにしても、生き物の場合のようにはいかない。それは人間の知識の枠組みを越えるものでないからだ。□④□このような事情も絡んで、AIの初期の段階ではいろいろ□⑤□躓きがあったと察せられる。とはいえスピーディなコンピュータの進化のなかで、どんどん異変が起こりはじめた。入力された情報自体の□⑥□発露をはみでて、情報同士の刺激や衝突から新たに情報を生んだり、□⑦□外部世界と関わったりしうる可能性が出てきたからだ。そこから対応力とも言うべき他とのさまざまな反応のメカニズムが開発されれば、AIが賢い生きものと化すことは□⑧□X□を見るより明らかだろう。

AIに考える力、□⑨□B□性を持たせることが出来るとしてもその範囲は限られよう。問題は他との関係作用で応答の技能が発揮された場合である。棋士がどんな妙手を打ったとしても、AIがその先を読んでしまう事態がすでに訪れている。AIに勝つ方法は対応関係の外に立つことであるが、囲碁のシステムからして難しい話になってしまう。コンピュータを狂わすほどのトンチンカンな□⑩□C□的な碁が成り立つかどうか。

□⑪□私は「ロボットと画家」（『余白の芸術』所収）という小文のなかで、□⑫□画家の恣意性について述べたことがある。ロボットはコンセプト通りに描くが、画家の制作は□⑬□⑭□そうではないという指摘だった。画家はコンセプトや下図が用意されていても、描く時さまざまな条件の変化、想像力の働き、身体の調子や気分の揺れのなかで制作を進める。言い換えれば、気まぐれとは言えない鋭いひらめきや何かの大きな力が、制作中絶えず作動しているということである。

ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を例に取るまでもなく、歴代名画と称される絵を□⑮□線で透視してみると、何度も凶像を変更したものが多し。現代美術のなかには、描いたり消したり、意外な物体を貼り付けたりして、制作過程で□⑯□意図が反転したり意味が不透明になったりするものもある。そして古今を問わず、□⑰□D□的に理路整然を装っている絵でも、よく見ると異様な狂気に覆われているものさえ少なくない。

表現行為は着実なコンセプトの□⑱□D□遂行やそのためのコントロールを強いる意識と共に、それとは反対の予期しない出会い、衝動的な欲望や狂気を孕んだ自由な想像力を伴う。言うなれば、画家は考えと行為を整備しつつ平常心を保とうと務めるが、常に底辺に□⑲□E□巻いている得体の知れないマグマに突き上げられているのである。

画家によつては、とくに現代美術においては、□⑳□①□素材や行為が暴れるに委せた表現が多い。コンピュータで描いたものを手作業で引つ掻き回すこともある。正確な描写の上に写真や物体を組み合わせたものもある。このようなことはいわば近代までの□㉑□E□的なコンテキスト主義に抗して、感情や物質や諸外部とのぶつかり合いをあえて受け入れようとする、まさに現代という時代の自由から来たものと言っている。

それ故現代美術の多くの作家は、緻密なプランニングを立てたり、時にAIを活用したりしつつ、□㉒□②□不用意なことを平気で行う。その実いつの時代だって美術の表現は、意識の織り成した観念と共に言いようのない不気味な何かが重なり合うものだ。美術家はこれから意識の先端でありその総体であるAIとも関わるが、一層外界と向き合い、計り知れない無意識の海をもいつとなく吸い上げて行くであらう。

コンピュータの発明は近代の産物であり、それは人類史の輝かしい成果に違いない。私はそれは、人間の知的活動や日常生活を豊かにし、より便利な社会を作るに役立つ道具であることを信じてやまない。もちろん危険や暴走を招く方向のAIの開発には用心せねばなるまい。いずれにしても万事がAIで解決したり、人間が仕上げの状態になったりする気はしない。何よりも人工物のコンピュータに対して、人間は生命体の誇りを持つ自覚の存在だからなのだ。

人間の考えや意志には限界があつても、世界との出会いは無限である。つまり未知への好奇心に燃える生きた存在であること。そして絶えず無意識の刺激に突き動かされる表現を自覚する時、□㉓□③□人間は決してAIの侵すことの出来ない聖域に思えてならない。創意力の象徴

のような美術においては、ますます作家の生身の存在の働きが光ると、私は思うのである。

（「日本経済新聞」二〇一六年五月十五日朝刊・李禹煥『人工知能と美術家』）

問一 ― AとEについて、漢字は読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直し、楷書かいしょで書きなさい。

問二 ― AとEを補うのに最も適切な言葉を選んで、それぞれ記号で答えなさい。同一の記号を用いるのは一度だけです。

ア 自発      イ 協働      ウ 創意      エ 突発      オ 理性      カ 圧倒      キ 表面

問三 ― ①と⑥を補うのに最も適切な言葉を選んで、それぞれ記号で答えなさい。同一の記号を用いるのは一度だけです。

ア かつて      イ そもそも      ウ わざわざ      エ たしかに      オ ついには  
カ 往々にして      キ あえて

問四 ― 1「複雑な心境である」とありますが、なぜ「複雑な心境」になるのですか。説明しなさい。

問五 ― 2「このような事情」とは、どういうことを指していますか。説明しなさい。

問六 ― Xを補うのに最も適切な言葉を、漢字一文字で答えなさい。

問七 ― 3「画家の恣意性」とは画家のどのような傾向を言っているのですか。最も適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 画家がAIと異なる絵の制作法を好むこと。  
イ 画家が自らの心の赴くままに絵を描くこと。  
ウ 画家が異様な狂気に覆われた絵を好むこと。  
エ 画家がAIを超える絵を描こうとすること。

問八 ― 4「得体の知れないマグマ」とは何を指していますか。具体的に言い換えている表現を文中から十九字で抜き出して、その最初と最後の三字を答えなさい。

問九 ― 5「人間は決してAIの侵すことの出来ない聖域に思えてならない」と筆者が言うのはなぜですか。説明しなさい。

問十 右の文中からは次の一文が脱けています。**どの形式段落の最後に戻すのが適切ですか。**戻す直前の七字を抜き出さない。ただし、句読点も字数に含めます。

【この二重性、矛盾律から両義性や恣意性が働き、作品に生氣とダイナミズムを生んでいることは意外と知られていない。】

【次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合で、空欄にした部分があります。）

文化祭で歌う『遠い日の歌』の、ソプラノのパート練習。

オルガンで音を取りながら、一度通して歌い、二度目の練習に入る。すると、途中で、教室の後ろのドアが開いて、ソプラノのパートリーダーである琴穂が顔を出した。

「ごめん！部活の片づけで遅れちゃった」

オルガンを囲んでいたソプラノの女子が一斉に歌うのをやめて、声の方向を見る。琴穂が顔の前で手を合わせて「ごめんごめん」と言いながら駆け寄ってくる。

「本当にごめんね。今どこ歌ってた？」

「――いいよ、もう一度最初からやろう」

すぐに練習が再開され、琴穂も加わったが、歌い始める前に、マチの後ろで「琴穂ちゃん、いつも遅れてくるよね」という小さな声が

聞こえた。自分のことではないけど、ドキンとする。聞いてはいけない気がするのに、耳が勝手に声の続きを聞いてしまう。

「リーダーなのに、やる気あるのかな」

琴穂は、朝練習を遅刻することが多い。その上、放課後も部活を理由に早めに練習を切り上げ、他のみんなを残して先に教室を出て行ってしまふことがよくあった。

歌った後で、それぞれグループごと、自分たちの歌の悪い部分について話し合う。

教室の隅から、アルトの女子の声が聞こえてくる。自分たちのソプラノより歌声がまとまっているように聞こえて、このままじゃ合わせて練習したときに声量が負けてしまうのではないか、つられてしまうのではないかと心配だ。アルトのリーダーであるみなみの声が一際よく聞こえる。

マチがみなみの方を見てみると、琴穂が「ねえねえ」と話しかけてきた。てっきり合唱に関することだろうと振り向くと、いきなり「聞いてみた？」と聞かれた。

「何を？」

「みなみと恒河のことだよ。夏休み、自由研究一緒にやったんでしょ？あの二人、つきあってるの？」

小声になって関係のない話をしようとする。

その言葉を聞いた途端、ふいに、マチの胸の中でたくさんの感情が一度に揺れ動いた。<sup>1</sup>

『リーダーなのに、やる気あるのかな』

「ちゃんと練習、しようよ」

とつさに飛び出した声が我ながら冷たく聞こえて、驚いた。琴穂が「え」と短く声を出す。<sup>2</sup> きよんとしたその表情を見たら、もう一押し、声が止まらずに出てしまった。

「しっかりとやろうよ。琴穂、遅れてきたのに、関係のない話したり、全然、みんなに悪いと思ってる様子がないよ」

琴穂が目を見開いた。ショックを受けたのだと、表情でわかった。わかった途端、喉元が苦しくなつて、それから全身が熱くなる。顔を伏せて、琴穂から離れた。

<sup>3</sup> ややあつて、背後から「わかった」と琴穂の声が答えた。思いがけず素直な声だったせいで、琴穂が沈んだ様子なのが、振り返らなくても伝わってくる。マチが返事をするより早く、「じゃ、もう一度ね」と他の子の声が出て、歌の練習がまた始まってしまふ。

声がかうまく出なかった。息が苦しかった。

練習が終わった後で様子を見ると、琴穂は顔を俯けながら席に戻るところだった。マチの胸を小さな痛みがちくりと刺した。

そのとき、「マチ」と呼びかけられた。さつき、琴穂の遅刻を責めていた子たちだ。

「琴穂のこと、ありがとう。マチみたいなまじめない子が注意してくれると助かるよ」

こっそりと囁くような声に「ううん」と首を振る。<sup>4</sup> 感謝されるようなことは何も無い。黙って一人で席に着いた琴穂のことが気がかりだった。

その日は一日中、同じ教室の中で琴穂と気まずい時間を過ごした。

「どうしたの？マチ、元気ないね」

「そんなことないよ」

みなみの声にも首を振る。誰にも、これ以上何も言いたくなかった。

一人で帰る前に、図書室に本を返しに寄る。本と紙の匂いに包まれた大好きな場所に入った途端、全身から力が抜けて、泣き出しそうな気持ちになった。明日から、琴穂とどう顔を合わせればいいかわからなかった。合唱練習は明日もあるのに。

そのとき、図書室の奥のカベン<sup>A</sup>いに並んだ百科事典が目に残った。<sup>注</sup> 見えない「誰か」と続けている文通。次にメモを残すのはマチの番だった。

本を手に取り、いつもより長く、手紙を書いた。

『真面目だ、いい子だ、と言われると、ほめられているはずなのに、なんだか苦しくなる。はつきり言えないことを優しいって言うてる人もいるけど、わたしは、本当は自分が人に嫌われたくないからそうしてるんだと思う。わたしはオクビヨウ<sup>B</sup>です。』

次の日の朝練に、琴穂は遅刻もせず、時間より早く現れた。

<sup>5</sup> 何事もなかったかのように「さあ、練習するよー」と明るい声を出してみんなの前に立つ。マチにも「マチ、おはよう」と普段通り

<sup>C</sup>挨拶してくれた。

その声にほっとして、マチも「おはよう」と返事をする。けれど、琴穂が無理をしているんじゃないかと、やっぱりまだ気になった。

その日の放課後、図書室に急いで、ドキドキしながら本を開いた。昨日残した自分の長い手紙に、相手がどんな返事を残しているかを考えると、待ち遠しいような、怖いような気持ちだった。本を開くと、返事はもう来ていた。いつもより長い。

『断れない、はっきり言えない人は、誰かが傷つくのが嫌で、人の傷まで自分で背負ってしまう強い人だと思う。がんばって。』

——がんばって。

読んだ瞬間、胸がぐっと熱くなった。

手紙を抜き取って、本を元に戻す。何度も何度も読んでから、お守りのように、そっと胸に当てた。便せんの内側が、あたたかく熱を持っているように感じた。

翌日の練習で、マチは思いきって、琴穂に自分の方から「おはよう」と挨拶してみた。練習用のテープのセットをしていた琴穂が、<sup>5</sup>驚いたように一瞬黙ってから、マチの顔を見て、それから、一呼吸ついて、<sup>D</sup>ホホエんだ。

「おはよう、マチ。がんばろうね」

「うん。——テープ、借りてきてくれたの？ありがとう」

「一応、リーダーだから」

照れくさそうに、琴穂がマチからぱっと目をそらした。

<sup>6</sup>その日から、ソプラノは、みんなだんだんと声が出るようになっていった。

文化祭当日の合唱は、今までの練習の中でも声が一番伸びやかに重なって聞こえた。

アルトや、男子の声にだって負けていけない。横の琴穂とも声がひとつになっている手ごたえがあった。

歌いながら、気づくことがあった。

みなみたちのアルトと違って、マチたちのソプラノはパートリーダーがなかなか決まらなかった。そのときに手を挙げて、リーダーになったのは琴穂だ。深く考えなかったけど、あれは、他に誰も立候補がなく練習が進まないのを見て、琴穂がみんなが嫌がる役を進んで引き受けてくれたのではないだろうか。

だとすれば、それはとても勇気があることだと思う。

人はただ 風の中を 祈りながら 歩き続ける

歌詞を噛みしめるように声を出しながら、マチは「<sup>7</sup>ありがとう」と思った。琴穂にも、手紙をくれた見えない誰かにも。

歌い終えた後で、琴穂から「やったね」と声をかけられた。他の学年の生徒からの拍手の大きさが、合唱の成功を物語って聞こえた。「うん」と頷き、お互いに手に<sup>E</sup>拳を握ってガッツポーズを作る。

教室に戻るとき、みなみからも「マチ、がんばったね」と声をかけられた。

「ソプラノの子たちから聞いたけど、練習をまとめるきっかけを作ったのはマチだったんだってね。偉い！」

「私、何もしてないよ。それを言うなら、みなみちゃんだってアルトをしっかりとめて、私なんかよりずっと、普段から偉いよ」

「うん。マチはいつも、あんまりはつきり人を注意したりしないし、私、マチは人が傷つくのが嫌な優しい子だと思ってたんだ。そういう優しい人が誰かを注意するのって、私が普段やってるのより何倍も勇気がいると思う。マチはすごいよ」

「そんなこと……」

恥ずかしくて顔を伏せ、感激しながら俯いたそのときだった。みなみの言葉の一部分が、マチの心の柔らかな場所にふっと入りこんできた。

あっと思い当たる。

みなみの今の言葉は、マチがもらった図書室のあのメモの言葉とどこか似ている。

普段からはつきり意見が言えないこと。誰かが傷つくのが嫌なこと。マチを励ますような力強い言葉と、考え方だ。

言葉が出てこなかった。そのままじっと、みなみの顔を見つめる。みなみはもう、前を向いてしまっている。

思い出す、記憶があった。

『ナルニア国ものがたり』の二巻と三巻。手紙の主がマチに最初に返事をくれた、あの本。本が返却されたばかりの棚の前に、あの朝、みなみがあった。——まるで、本を返したのが、みなみだったかのようなタイミングで。

胸がざわざわする。ひとつの可能性がふっと浮かんだ。

注 見えない「誰か」と続けている文通：以前からマチは、「誰か」と学校の図書室の本に挟んだ手紙（メモ）を交換する文通が続いている。

問一 —— AとEについて、漢字は読み方をひらがなで答え、カタカナは漢字に直し、楷書で書きなさい。

問二 —— 1 「たくさんの感情が一度に揺れ動いた」とありますが、「たくさんの感情」とは具体的にどのような感情ですか。適切でないものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 周囲の気持ちに無頓着で自分勝手な振る舞いが目立つ琴穂に対して、いら立ちを覚えている。
- イ 周囲の気持ちが全く琴穂に伝わっていない様子であることに對して、むなしさを感じている。
- ウ 練習に遅れてきただけでなく、真剣に取り組もうとしない琴穂の態度を不満に思っている。
- エ 琴穂のいい加減な練習態度を改めさせるために、自分が注意するしかないと感じ込んでいる。

問三 —— 2 「きよんとしたその表情」とありますが、このような表情をした琴穂の心情を説明しなさい。

問四 —— 3 「ややあって」の意味について、最も適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア こっそりと
- イ ためらいがちに
- ウ 突然
- エ しばらくして

問五 —— 4 「感謝されるようなことは何もない」とありますが、マチがそのように考えるのはなぜですか。その理由を説明した次の文の空欄に当てはまる言葉を、文中から指定された字数で抜き出して答えなさい。

【 普段のマチは（① 九字）ためにあまり人に（② 八字）にも関わらず、とっさに飛び出した言葉によって琴穂を傷つけてしまったから。 】

問六 —— 5とありますが、琴穂が「何事もなかったかのように」「明るい声を出し」たのは何のためだと考えられますか。説明しなさい。

問七 —— 6 「その日から、ソプラノは、みんなだんだんと声が出るようになっていった」とありますが、この表現はどのようなことを表していると考えられますか。最も適切なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 合唱に真剣に取り組む琴穂の姿を見て、パートのメンバーたちが琴穂を誤解していたことに気づき始めたということ。
- イ リーダーとしての自覚を持つようになった琴穂をメンバーたちが認め、パートがひとつにまとまっていったということ。
- ウ 琴穂が借りてきたテープによって音程が合うようになり、一人一人が音に自信を持って歌えるようになったということ。
- エ マチと琴穂が仲直りしたことで、二人に気を遣っていたメンバーたちが自由に意見を出し合えるようになったということ。

問八 —— 7 「ありがとう」とありますが、マチは「琴穂」と「手紙をくれた見えない誰か」の、どのようなことに対して感謝の気持ちを感じているのですか。それぞれについて説明しなさい。

問九 

8
---

 には、マチの思いついた「可能性」を述べた表現が入ります。どのような表現が適切か、考えて答えなさい。ただし、次の（イ）（ロ）（ハ）の条件を満たして答えること。

- （イ） マチの台詞の形で答えること。
- （ロ） 一文で答えること。
- （ハ） 一文で答えること。